

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

	所管課	健康づくり課
会議名 (審議会等名)	令和2年度 嬉野市第2回食育推進会議	
開催日時	令和3年2月25日(木) 14:00～15:20	
開催場所	嬉野市役所 塩田庁舎 3階 3-2会議室	
会議の公開の可否	☑ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数 0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由		
出席者	委員	森サチ子委員、江口智子委員、福田智代委員 永吉洋子委員、峰松美佐子委員、中島構治委員 松尾明美委員、浦川良子委員、湊野理香委員 溝口紘子委員、尾形有紀委員、村武悦子委員
	事務局	市民福祉部長、健康づくり課長、健康づくり課副課長2名 健康づくり課主任
	その他	
会議の議題	別紙のとおり	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議レジメ ・ 資料1～6 ・ 市報うれしの令和2年11月号食育月間のページコピー ・ ヘルスメイトだより (令和2年11月号) 	
審議等の内容	別紙のとおり	

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

	所管課	健康づくり課
審議経過	<p>1. 開会</p> <p>2. 市民福祉部長挨拶</p> <p>3. 嬉野市食育推進会議会長挨拶</p> <p>【事務局】委員14名中12名の出席。嬉野市食育推進会議条例第6条第2項で過半数の出席を満たしており、成立する。</p> <p>4. 協議事項</p> <p>(1) 令和2年度嬉野市食育推進事業報告について</p> <p>1) 食育推進事業について</p> <p>【事務局】P.1～P.2について説明。</p> <p>2) 食育広報及び食育推進に関する調査について</p> <p>【事務局】P.3～P.4について説明。</p> <p>3) その他の事業取組について</p> <p>【事務局】P.5～P.35について説明。</p> <p>(2) 第3次嬉野市総合計画・嬉野市食育推進計画中間評価について</p> <p>1) 学校および幼稚園・保育園のアンケート結果について</p> <p>【事務局】資料1・2について説明。</p> <p>2) 数値目標達成状況について</p> <p>【事務局】資料3・4について説明。</p> <p>3) 委員からのご意見について</p> <p>【事務局】資料5について説明。</p> <p>4) 評価と今後の取組について</p> <p>【事務局】資料6について説明。</p> <p>【委員】どなたか意見はありませんか。</p> <p>【委員】子どももメタボ傾向にあると言われている。食も量の問題だと思っている。親がどこを基準に制限したらいいのかが分かっていないのではないかと感じる。運動量と食事、代謝のいい人と悪い人もいる。ある専門家から現代人はプラス食事をしていて聞いたことがある。常にプラス、栄養が行き過ぎている状態。身体をあまり動かさない人が夕食をたくさん食べる、飲酒、脂っこいもの、プラスプラスになっている。生活習慣病になりやすい。摂取の仕方、摂取量を調査したのがあったら、それを事例に役立て指導をしていくと若い親にも伝わるのではないかと。</p> <p>【事務局】BMIや体重の変化、栄養素の摂取については「国民栄養調査」なども参考にしながらすすめたい。</p> <p>【委員】活動量によって違うと思う。自分の体に見合うのはこのくらいというのがなんらかの数値で分かれば、考えることができるのではないかと。</p>	

審議経過

【事務局】子どものころからそのような教育が必要ということですか。

【委員】その通り。

【委員】今、言われた意見について、高校の食品調理科で栄養学を教えているが体重と年齢、性別に合わせた基礎代謝から動いた日と動かない日のエネルギー量を計算させ、部活のある日とない日は違うということを教えている。しかし、専門の科の生徒のみで限定的。個人の差が出る部活動が始まる時期に全生徒にそういう自分の体と向き合う時間ができるような指導ができればいいと思う。また、朝食について言うと、主食とみそ汁のみでもいいのではないかと思う。乳幼児健診では主食と具だくさんのみそ汁でもよいと指導している。みそ汁の中身によっても違うので、アンケートの結果もどうなのかなと思った。

【委員】職種によって活動量は違うと思う。アンケート結果の歩数の少なさにびっくりしている。普段、万歩計を着用している。歩数はかなり多い。特別な運動をしなくても普段の生活の中で身体を動かすことでも運動になっているということを感じ、それを喜びに変える習慣が必要ではないかと思う。油を使わなくてもよいフライパンとかいろいろな道具をうまく使うと健康になっていくのではないか。子どものおやつもスナック菓子、パン、インスタントラーメンなど、油を多く含む食べ物でカロリーも多くとっているのではないかと思っている。食べるもの、食べる量、使う道具、身体活動、そのようなことに気を付けていれば、健康は維持できると思っている。

【委員】どのくらいの量は何キロカロリーか分からないので、講演会で直接専門家の話を聞くといいと思う。

【委員】結局は、子どもの食環境は親の問題だと思う。アンケートで親が悩んでいるということが分かったのでそれに対して親へ教えるチャンスを作ってあげたい。赤ちゃん訪問に行くと、赤ちゃんのことより兄弟の食に関する悩みを言われることが多い。頑張っているお母さんたちを応援したい。コロナ禍で子どもが給食をただ黙々と食べているのではないかと心配している。現状はどうか教えてほしい。

【委員】食は大事だと思う。おやつの与え方等、大人も子どもも考えていかななくてはいけないと痛感している。

【委員】市の乳幼児健診を受けた保護者が、太っているとか痩せているとか言われ、「どうしたらいいか。」と保育園でたずねられる。太っている子は動かないことが多いのでお散歩など運動をするよう促している。痩せている子は好き嫌いが多かったり食が細かったり。食だけではなく運動などの面からも取り組んでいる。重要な健診で指摘してもらえると保護者も保育園でも取り組みやすい。

【委員】子どもの食事はまず大人から。大人へ伝えるのが一番大変。アンケートの記述で悩みを書ってくれた保護者は一生懸命考えている場合が多い。その子どもも特に食では大きな問題はないように見える。悩んでいる親の方が意外ときちんとしている。理想は分かるけど、できていない親が多いと思う。一方、アンケートすら答えない親もいる。そのような家庭の子どもは朝食を食べてきていない。あめをなめてきたというときもある。それぞれの生活の悩みがあるので向き合って寄り添って応援できたらいいと思う。一番助けてあげたい子どもに伝わっていないと感じる。

審議経過

【委員】勤務する小学校では給食は前向きでしゃべらずに食べるよう指導している。食べ終わったらマスクを着けてしゃべっている。小学生でも女の子は健康診断の時に明らかに太っていないのに「太った。」と言う。身長が伸びているのであたりまえだと話す気になっているようなので標準体重を教えている。自分たちで計算させて見ると適正を理解する。県のベジスタ事業の絵本は1年生に読み聞かせをしたが好評だった。きのこ嫌が多い。給食からも取り除く。家では食べないので給食で食べさせてくださいと言われる。家庭でも食べるよう促し、食育の大切さを理解してもらうなどの協力は必要。マナーについても犬食いをしたり器の持ち方が悪かったりするのので、今後は食育調査の報告にもあった食事マナーの動画なども活用したい。学校と家庭と地域の方々と協力してすすめていきたい。

【委員】給食指導に回っているが、小さい学校では透明シートを使用している。小学生は全くしゃべらないで食べるというのは難しい。基本は前向き給食だが全く楽しんでいないということもないようだったので安心している。野菜嫌いについては、訪問して一緒に食べると頑張ってくれてくれる。ほめて食べるよう促している。中学3年生には活動量の違いや食事の適量について話すこともある。体質によって太る太らないがあるのかなとも思う。家庭との協力が必要。小学校では授業参観に合わせて保護者にも朝食の話をしているので続けていきたい。朝食の摂取率が中学校より高校のほうがよかったのので、今後、中学校もより工夫して推進していきたい。

【委員】保健所なので食事中は無言でと指導する立場だが、反面、食育のことを考えるとどかしい。アンケート結果は保育園・幼稚園がすべて×であったことがなぜなのかと気になった。確かに佐賀県の「健康プラン」でも食事の面は改善できていなかった。保育園・幼稚園の研修会の担当をしているが、非常に頑張っておられるのを知っているので結果が不思議。親世代にどう食育をしていくかが課題。親世代は職域に属している世代なのでもっと啓発していきたい。県のベジスタ事業は今さら？という声もあったが、できていないから取り組んだ。PRが不足している部分があると思う。粘り強く推進していきたい。

【委員】いろいろな取り組みをされていることが分かった。今後の取り組みについてまとめたい。たくさんを一度にはなかなか難しいと思うので、何か1つの目標をみんなで取り組んでみてはどうかと思ったがいかがか。

【事務局】再来年度には第4次の計画を立てるための調査を実施する。それまでに意見があったような保育園・幼稚園の食育とか朝ごはんのバランスとか、目標をしぼってそれに向かって取り組む方法もあるのではないかと感じた。

【委員】県の「健康プラン」でも中間評価で重点目標をしぼって取り組んだ。それがベジスタ事業だった。気になるところ、2年という期間でできるところ、対象者や目標を設定すると取り組みやすい。例えば、子どもについては関係者がこの会議の場に多数いるのでやりやすいのかもしれないが、一方、大人に対する取り組みは難しいのではないか。市としてはどのようなことが問題となっていると考えているのか。

【事務局】市では幼児健診の際に一人ずつ全員に話をしている。1歳6か月健診時では生活リズムやおやつについて、3歳児健診では朝ごはんの大切さと集中力がバラン

スに関係していることなどを話している。具だくさんのみそ汁という話があったが、朝食にみそ汁を食べているのは1割ぐらいしかいない。乳幼児期の食育は将来の健康づくりにもつながっているのではないかと思っている。委員の皆さんにはそのあたりを今後の活動時に考慮していただき、各分野で取り組みを進めていただきたい。

(3) 令和3年度嬉野市食育推進事業計画について

1) 食育推進事業計画について (案)

【事務局】P. 36 で提案。来年度も県では食育講演会を実施する予定。ぜひ依頼していただきたい。

2) 食育広報及び食育推進に関する調査について (案)

【事務局】P. 37 で提案。

5. その他

(1) 嬉野市食育推進会議委員名簿

【事務局】委員の任期は来年度までとなっているが、交代の場合は事務局まで連絡をお願いします。

6. 閉会

以上